

## 東日本大震災に伴う山形県畜産業への影響と対応について

今田 匡彦\*

山形県農林水産部畜産課

## 1. 山形県畜産の被害について

- (1) 家畜の被害（山形市）倒壊した畜舎の下敷きとなり、乳牛9頭が死亡
- (2) 施設の被害
  - ①置賜家畜市場（川西町）：つなぎ場1棟倒壊
  - ②牛舎（山形市）：1棟倒壊（(1)の事例の畜舎）
  - ③牛舎周辺の亀裂等（尾花沢市）：外周部及び道路の亀裂及び段差の発生
  - ④牛舎脇の法面の亀裂等（尾花沢市）：牛舎脇の法面の「ひび割れ」発生
- (3) その他、牛乳の廃棄（新庄市、最上町、金山町）
  - ①一部の地域では、停電によりバルククーラー（保冷一時保管施設）の稼働停止により、牛乳を保冷できずに廃棄した。
  - ②庄内食肉公社では、震災による停電でと畜処理ラインがストップし、ライン上にあった枝肉を、処理、検査、保冷できず、廃棄せざるをえなくなった（肥育豚79頭）。震災翌日、化製処理業者に依頼して処分した。

## 2. 震災発生当時の対応について

- (1) 停電発生時における搾乳作業  
震災時の搾乳作業は農協等が手配した発電機により対応した。
- (2) 燃油について  
震災後は、各乳業メーカー・食肉処理施設での機械の稼働や、牛乳・配合飼料の運搬に必要な燃油の確保に困窮する状態が続いた。各事業者が燃油の調達に努めて対応し、4月下旬にはほぼ回復した。
- (3) 牛乳パック  
震災後は入荷しにくい状況が続き、韓国からの輸入などにより、各社が調達に努めた。入手状況については、4月下旬にはほぼ回復した。
- (4) 家畜飼料  
山形県内で使用されている家畜飼料は、被災を受けた石巻市などの飼料工場で製造されていたため、各飼料販売業者は、被災地以外（九州地方、北海道、茨城県、愛知県等）の工場に調達ルートを変更し、調整を進めた。流通状況は、4月下旬にはほぼ回復した。

\* 連絡者：今田 匡彦  
(山形県農林水産部畜産課)  
〒990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号  
Tel 023-630-2475 Fax 023-630-3257  
E-mail kontam@pref.yamagata.jp

### 3. 畜産物の流通関係への影響について

(1) 肉用牛：殆どが県内の食肉処理場で処理されており、出荷に際しては特に支障はない状況であった。

#### 【枝肉価格の動向】

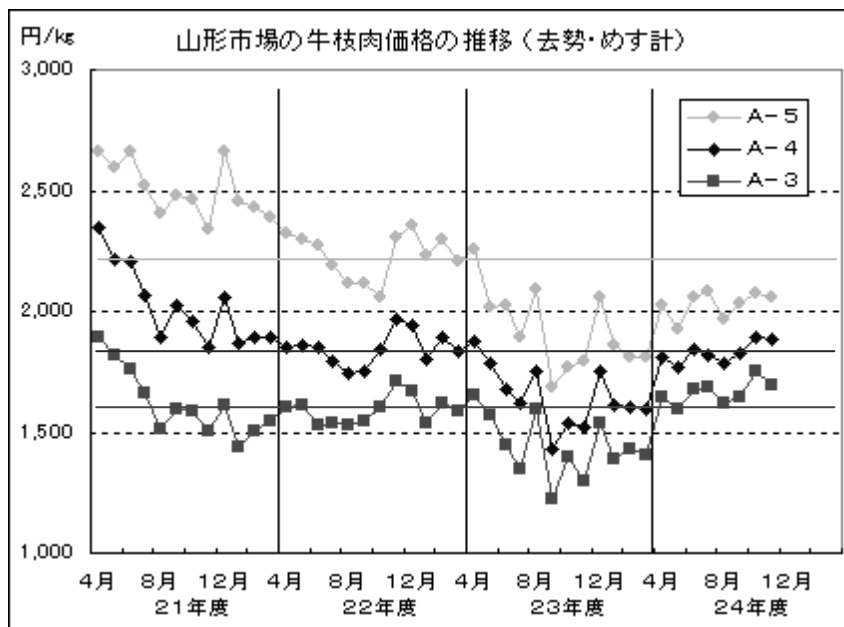
- ① 福島原子力発電所事故による、放射性物質に汚染された稲わらの給与に起因して、福島県産の牛肉から放射性セシウムが検出され（平成23年7月8日）、また、山形県内に於いても汚染された稲わらを給与した肉牛が出荷されていた等の理由から、山形枝肉市場の枝肉取引価格は、7月15日（1,497円/kg）と比較し、7月19日1,132円/kg（76%）大幅に下落した。
- ② 山形県では平成23年7月25日から、牛肉の出荷前の放射性セシウムの全頭検査を開始し、平成23年8月1日以降に開催された山形枝肉市場では、汚染稲わらが問題となる以前の平成23年7月15日（1,497円/kg）と比較し、高値で推移していた。
- ③ しかし、平成23年9月以降に開催された山形枝肉市場では、汚染稲わらが問題となる以前の平成23年7月15日（1,497円/kg）と比較し、最大で10%程度下落した。

平成24年11月現在、総じて回復傾向にあるが、前年同時期と比べると10%程度下回っている。

山形牛枝肉市場（去勢・めす計）

	A-5	A-4	A-3	
21年度	2502	2004	1607	
22年度	2234	1851	1597	
23年度	1918	1661	1466	
24年度	2032	1834	1667	(11月まで)

H24/H22	91.0%	99.1%	104.4%
---------	-------	-------	--------



※ 直線 ———— はH22平均値

- ④ 米沢枝肉市場においても同様に、全頭検査開始後は、平成 23 年 7 月 14 日 (1,871 円 /kg) と比較し、高値で推移していた。

平成 23 年 9 月以降に開催された市場においては、平成 23 年 7 月 14 日と比較し、最大で 20% 程度下落した。

- (2) 生乳：生産量の約 3 割を県内乳業メーカーに、残りを関東等への出荷で毎日調整しており、出荷に特に支障はなかった。
- (3) 豚肉：平成 23 年 3 月の震災以降から 8 月にかけては、平成 22 年夏の猛暑の影響から全国的に出荷量が減少し、また、震災を機に消費者の節約志向から全体的に高値で推移していた。しかし、10 月以降の豚枝肉相場は低迷した。これは、平成 22 年の猛暑で受胎が遅れたことにより、秋に受胎した豚が一斉に出荷時期を迎え、と畜が集中したこと、また、輸入の冷蔵豚肉の在庫を多く抱えていたことが原因としてあげられた。
- (4) 鶏卵：震災後は全国的な生産量の減少により、品薄感が強まり価格は高値で推移した。しかし、飼料や卵の物流復旧が進んだことから生産量が回復し、価格は平年ベースの価格で推移した。

#### 4. 原子力発電所事故関連・畜産物等の放射性物質検査について

##### (1) 畜産物のモニタリング検査

平成 23 年 3 月 25 日、県内産の「原乳」の放射性物質の検査を皮切りに、県内の畜産物の定期的な検査を実施し、食品衛生法に基づく基準値を下回り、安全であることを確認している（表 1）。

表 1. 畜産物モニタリング検査実施状況

H24.11.30 現在

年度	牛肉	原乳	豚肉	鶏肉	鶏卵	羊肉	ハチミツ	計
H23	10	17	7	4	5	5	0	48
H24	0	16	11	3	3	7	4	44
累計	10	23	18	7	8	12	4	92

※検査機関及び検査方法

山形県衛生研究所（ゲルマニウム半導体検出器を使用し、基準値の 5 分の 1 以下の検出限界値を確保）

##### (2) 牛肉の出荷前全頭検査

福島原子力発電所事故による放射性物質に汚染された稲わらの給与に起因して、福島県産の牛肉から放射性セシウムが検出され（7 月 8 日）、また、山形県内に於いても汚染された稲わらを給与した肉牛が出荷されていた等から、国の定める暫定規制値を下回った牛肉だけを流通させる仕組みが必要であったことから、山形県では 7 月 25 日から、牛肉の出荷前の放射性セシウムの全頭検査を開始した（表 2）。

表 2. 牛肉放射性物質全頭検査実施状況 (Bq/kg)

H24.11.30 現在

年度	検査頭数	N D	～ 50	51 ～ 100	101 ～ 200	201 ～ 300	301 ～ 400	401 ～ 500
H23	12,039	10,380	1,523	101	33	0	1	1
H24	10,141	10,141	0	0	0	0	0	0
累計	22,180	20,521	1,523	101	33	0	1	1

※ 検査機関及び検査方法

H23. 7.25 ～ H23.11.21 民間機関によるゲルマニウム半導体検出器を用いた検査

H23.11.22 ～ 現在 山形県による NaI (TI) スペクトロメーターによる簡易検査

##### (3) 牧草の放射性物質検査

県内 4 地域 4 か所の牧草について放射性物質を検査したところ、農林水産省が設定した暫定許容値を下回ったことから、県内での放牧の実施及び生産される牧草の利用については、例年どおりとするよう指導した。

##### (4) 堆肥の放射性物質検査

国の通知等を踏まえ、平成 23 年 7 月 25 日から当面の間、家畜ふん尿由来堆肥の譲渡や施用の自粛を畜産農家に要請するとともに、8 月 17 日から牛ふん堆肥の放射性物質検査を実施した。これによって、基準を超えた放射性物質が検出された 8 戸を除いて 8 月末までには県内一円での自粛を解除した。また、当該 8 戸についても 9 月及び

12月に再検査を実施し、順次自粛を解除した。

## 5. 風評被害対策について

- (1) 平成23年7月20日、吉村知事は農林水産大臣に対し、風評被害対策や農家支援策など8項目を緊急要望した。
- (2) 平成23年8月1日、山形県議会は、放射性物質汚染稲わら問題に関する緊急要望書を国に提出した。
- (3) 平成23年8月17日、尾花沢市及び同市議会は、風評被害対策や補償を求める要望書を国に提出した。
- (4) 牛肉の販売価格の低落等に対しては、JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策山形県協議会が、風評被害に伴う販売価格の低下、取引先からの返品による損害、販売遅延による生産コストの増大等について、東京電力に対して損害賠償請求している。
- (5) がんばろう「山形県産牛」元気キャンペーン  
おいしくて安全な山形県産牛肉をより多くの消費者に届けるため、県内の生産者団体や流通関係者等が一体となって、消費拡大キャンペーンを実施した。

### 【主な取組み】

- ・平成23年8月6日「山形県産牛」おいしさ・安全アピール大会
- ・平成23年8月20日「山形県産牛」おいしさ・安全アピール in 東京
- ・平成23年8月29日～10月31日「山形県産牛肉」プレゼントキャンペーン
- ・平成23年9月11日「山形県産牛」おいしさ・安全アピール in 大阪



参加者全員で「山形県産牛」がんばろう宣言